

目の愛護デーに寄せて 一角膜移植とアイバンクの現状と課題—



ハートライフ病院 眼科 愛知 高明

視覚は人が社会生活を営むうえで最も重要な感覚の一つであり、その中でも角膜は眼の最前面に位置し外界からの光を眼内へと導く透明な組織で、カメラでいうレンズの役割を果たしています。感染症や外傷、遺伝性疾患、加齢による変性などにより角膜が混濁すると、眼鏡やコンタクトレンズでは矯正できない重度の視力障害をきたし、失明に至ることもあります。角膜の透明性を回復する唯一の確立された治療法が「角膜移植」であり、これは他者から提供されたドナー角膜を用いる移植医療です。

角膜移植は、角膜混濁や内皮機能不全などで失明の危機にある患者に対して、視覚を回復させ社会復帰を可能とする「視覚再建医療」として重要な位置を占めています。かつては全層角膜移植が主流でしたが、近年は医療技術の進歩により、病変部位のみを置換する「角膜内皮移植」や「表層移植」など、低侵襲で選択的な手術法が広がっています。さらに2023年には、ドナー由来の培養角膜内皮細胞を注入する新たな再生医療も厚生労働省の承認を得て臨床導入され、角膜移植の治療選択肢は飛躍的に広がっています。

一方で、いかなる術式であっても必ず必要となるのは「ドナー角膜」です。角膜移植は献眼者の尊い意思に支えられており、その仲介と管理を担うのが各地域の「アイバンク」です。アイバンクは献眼意思の確認から角膜の摘出・保存・評価・搬送までを一貫して行い、移植医療を支えています。

しかし、日本では長年にわたり慢性的なドナー不足が続いている。特に新型コロナウイルス流行以降は提供件数が大きく減少し、現在も十分な水準に戻っていません。そのため、移植を希望しても数年にわたり順番を待たなければならぬ状況が続いている。沖縄県においてもドナー不足が顕著であるため、米国など海外からの輸入角膜に依存しているのが現状です。輸入角膜は貴重な資源である一方、費用や供給の安定性に課題があり、今後も持続可能な形で治療を行うには、地域における献眼の啓発と協力が欠かせません。また、献眼の意思確認や搬送の現場では、看取りに関わる医療従事者、さらには臨床検査技師や事務職員など、多職種の理解と協力が必要です。



混濁した角膜



角膜移植後

視力を失った方が再び光を取り戻すために、そして未来の角膜移植医療を持続的に発展させていくために、私たち医療者だけでなく、社会全体で支えていくことが求められています。本稿をお読みいただいた皆様におかれましても、ぜひ献眼や角膜移植医療の意義を改めてご理解いただき、職種や立場の垣根を越えてご協力を賜れば幸いです。特に沖縄県においては、角膜移植を待ち望む患者が決して少なくありません。提供される角膜の数が限られる中で、一人

でも多くの方が適切な時期に治療を受けられるようになるためには、地域全体での理解と協力が不可欠です。皆様のお力添えが、患者の視力を回復させ、生活の質を大きく改善する大きな一歩となります。どうか引き続き、献眼および角膜移植医療へのご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。皆様の温かいご協力が、未来を担う医療の礎となることを、改めて強調して結びとさせていただきます。



お知らせ

沖縄県文化観光スポーツ部観光振興課からのお知らせ

おきなわ医療通訳サポートセンターについて

沖縄県では、外国人観光客の医療問題に対応すべく、多言語コールセンター（名称：おきなわ医療通訳サポートセンター）を開設し、医療機関向け①電話・映像医療通訳サービス②簡易翻訳サービス（医療機関向け）③インバウンド対応相談窓口（医療機関向け）をすべて無償で実施しております。

各医療機関におかれましては、是非、有効利用下さいますようご案内申し上げます。

【問い合わせ先】

「おきなわ医療通訳サポートセンター」
医療通訳サービス運営事務局
(受託事業者：株式会社 BRIDGE MULTILINGUAL SOLUTIONS)
0570-001-003

無料

24時間365日対応



①電話・映像医療通訳サービス（26ヵ国語対応）

0570-050-232

②簡易翻訳サービス（19ヵ国語対応）

okinawairyou-honyaku@bridge-ms.com

9時～17時・平日

③インバウンド対応相談窓口

okinawairyou-soudan@bridge-ms.com

0570-050-233



→ 詳細はこちらからご覧ください

<https://www.pref.okinawa.jp/site/bunka-sports/kankoshinko/ukeire/iryoutuyakorusentar.html>